

ネットワーキング委員会「研究・実践お悩み相談ゼミ」報告

ネットワーキング委員会（新見・金南・中尾・藪田・由井）

1. 開催概要

「研究・実践お悩み相談ゼミ ―オンラインでつながり、研究や実践を共に耕そう―」

<開催日時>

3月19日（土）13:00-15:10

<開催趣旨>

ネットワーキング委員会では今回、「研究・実践お悩み相談ゼミ」と題して、研究者・実践者同士で、自身の研究や実践の計画・現状についての情報交換や、悩みを相談できるオンラインの場を設けることにした。

今回の企画は、「研究や実践の話を中心に据えてネットワーキングを行う場が欲しい」「所属先に同級生や先輩後輩、同僚等が少なく、気軽に研究や実践の悩みを相談したりアドバイスをもらえるような場がほしい」といった声を受けて立ち上がった。

「発表者」は、悩みや迷いも含めて気軽に今自分が行っている研究や実践について話し、参加者からのコメントや質問をもらうことができた。また「参加者」は、そうした発表から刺激や気づきを得たり、他の参加者の質問やコメントから新しい視点を得ることができた。

<実施形態>

オンライン（Zoom）

<プログラム>

13:00-13:10 趣旨説明、全体でウォームアップ（10分）

13:10-14:00 相談ゼミ①（50分）【ブレイクアウト①】

14:00-14:10 休憩（10分）

14:10-15:00 相談ゼミ②（50分）【ブレイクアウト②】

15:00-15:10 まとめ（ふりかえり、感想、今後希望する活動アンケートなど）

実施に当たっては、各グループにネットワーク委員1名と、「発表者」1名、「参加者」2～3名を配置。5つのグループに分かれてブレイクアウトセッションを、13:10から14:00までと、14:10から15:00までの2回実施した。全ての「発表者」が、異なる「参加者」に対して、前半と後半、2度発表し、交流を行った。最後に、15:00から全体に戻っての共有、まとめを行った。

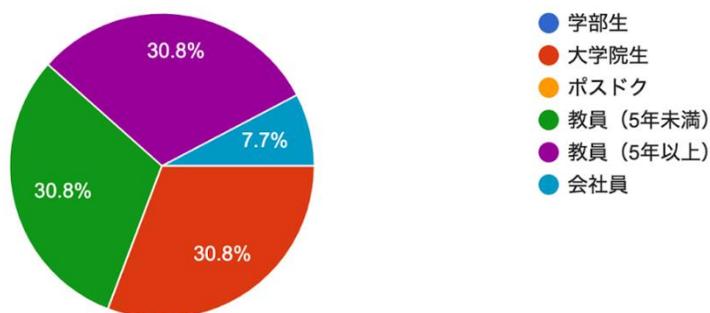
2. 参加状況

発表者 5 名、参加者 12 名、ネットワーキング委員 5 名
事後アンケート回答者 13 名（発表者 5 名・参加者 8 名）

<参加者プロフィール>

プロフィール

13 responses

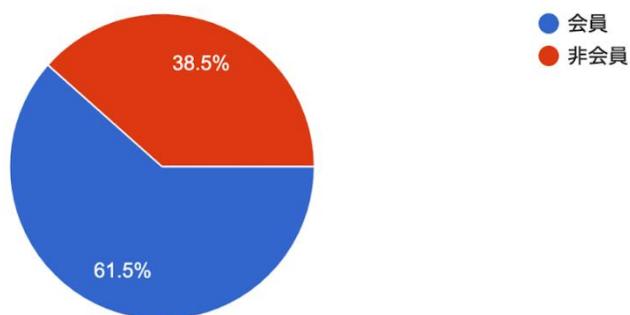


教員 (5 年以上)・教員 (5 年未満)・大学院生がそれぞれ 4 名ずつ参加。会社員 (大学院進学予定) の参加も 1 名。

<会員・非会員>

会員または非会員

13 responses



非会員 5 名・会員 8 名。今後学会に入会予定の方も参加して下さっていた。

3. アンケート結果報告

<本日の交流会の内容について、ご感想などを自由にご記入ください。>

「発表者」のコメント

金南さんからお声がけをいただき参加を決意したもののドキドキしていましたが、皆様からの温かいコメントと共に考えてくださる姿勢が大変ありがたく、頑張ってみようと思えました。ほかの発表者からのコメントにもありました

が、私はとくに同期のような存在もなく、日々孤独に手探りでいるものでしたので、こうしたコミュニティの大切さを改めて実感しました。また、こういったつながりの場の提供をいただけたことにも大変感謝しております。ありがとうございます。

参加者の方々から様々なコメントをいただき大変参考になりました。

自分が大雑把にしか考えていなかった部分、一つ一つを丁寧に、真剣に考えてくださって、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

今後、学会への入会を予定している者として、このように参加しやすい機会を提供して下さったことに感謝申し上げます。発表者として、研究相談をさせていただきましたが、研究の意義を再確認することができました。また、今後の計画の方向性を明確化することができましたので、研究意欲を落とさず、これからも頑張ろうという気持ちになりました。ありがとうございました。

普段発表する機会も少なかったので非常に有意義な時間でした。たくさんご意見をいただけてとても嬉しかったです。

「参加者」のコメント

普段触れないような研究について聞くことができ、他の方のコメントも自分の研究に参考になることが多く、参加者として参加しても大変勉強になった。

発表者のご発言をお聞きし、その後の質疑応答大変参考になりました。ありがとうございました。

とても充実しておりました。正会員になる来年度はぜひ発表者をしてみたいです。

とても面白かったです!ありがとうございました。

今までもいい企画はたくさんありましたが(いつもありがとうございます)、本日の企画がベストかもしれません。学際的な分野で、多様なバックグラウンドを持った会員がいる学会だからこそ、方法論や研究を高度化する議論が重要なのだと感じました。

非常にためになる時間でした。他の方の発表やコメントを聞くことで、気づきを得たり共感したり(安心したり…悩んでいるのは自分だけではない)して、自分もまた自分の実践や研究に向き合おうという気持ちになりました。本当に参加してよかったです。ありがとうございました。

量的研究について知りたいと思いつつ学んでこなかったのが、今日の発表で少しでも知ることができて有難かったです。また、実践者としての研究について、切り取り方が色々あることも勉強になりました。ただ、「参加者」としての参加しかできない状況(研究から離れている)のため、少人数でのGWはちょっとプレッシャーでした。本当の研究初心者は参加されていないんだな、とも思いました。年少者教育など実践者の方はたくさんいるので、研究がまったく初めての人向けのWSもあったら嬉しいです。友人に紹介したいです。

本日はどうもありがとうございました。最後の発表者の皆さんのコメントにもありましたが、大学院生は特にここ2年間周りと相談する機会も少なかったのだということを実感しました。あまりお悩みに対してじっくり言葉が出てこなかったかもしれませんが、指導生以外の方々の研究の悩みを聞いたり、話したりするのはとても考えさせられるものでした。ワクチン接種で寒気に襲われており、あまりしっかりと話せなかった気がしますが、とても良い企画でした。

<運営に関して、お気づきの点>

事前のご連絡も含めて、非常に丁寧にわかりやすい段取りで参加者として安心して参加できました。ありがとうございます。

可能であれば、参加者の方にも事前にレジュメに目を通していただけるといいかもしれません。
こちらの通信ネットワークが悪くて申し訳ありませんでした。
事前のメールでのご連絡、当日のリマインドメール、またブレイクアウトルームの運営など、参加者目線できめ細やかにサポートしてください、ありがとうございました。
休憩時間があったこと、組替えをして2回話ができただけのもよかったです!企画運営ありがとうございました。
最初、参加や接続でご迷惑をおかけすみませんでした。
ファシリテーターの方がいらして、参加者にターンを振ってくださるなど進行してください、助かりました。
由井先生の明るい司会がとてもよかったです!藪田先生とも同じ部屋で少しお話ができ、嬉しかったです。会員同士もお名前は知っているけど、気軽に話す機会があまりない状況の中、このような企画をくださりありがとうございました。どうしたら継続的な「つながり」にもっていけるのか、学会の会員制用のページに掲示板が作れると良いですね。

<大会の交流会に向けたアイディア・ご意見>

カジュアルにお話できる場があるのだな、ということを知り・経験することができ、こちらの学会にいてよかったなと思えました。今回のようなフラット(?)な場にまず顔をだしているいろいろ挑戦してみたいなと思っております。
研究法(質的・量的の混合研究法)などの事例紹介
オンライン交流会は、その場限りになりやすいので、もし対面で行われるのであれば、オンラインでお会いした方と実際につながれる時間が少しほしい(当日だけ参加や、様々なオンラインイベントがあるので、難しいとは思いますが…)
研究時間の捻出方法(多忙な研究者は、どのようにやり繰りしているのか) 英語論文の投稿先ジャーナルの選び方(自身の研究テーマに最適なジャーナルをどう探すか)
異文化間コミュニケーションツールとして、言語以外を扱う。 →スポーツ、音楽、絵画 etc
今日のように小グループで参加者同士が話しができる企画があるといいなと思います。大会中はどうしても誰かの話を聞くことがおおいので。
「今、このあたりが気になっている」「これって研究したらどうなるか」といった「気になる・研究してみたいテーマ」というものを話し合う機会があるとうれしいかと思えます。
今日みたいなテーマは良いですね。こんな研究一緒に考えましょう、みたいなものでも。日本語以外の異文化間教育に関わる文献・研究ってどういうものがあるの?とかのラウンドテーブルでも。

4. 振り返り

ネットワーキング委員会の2回目のイベントは、前回イベントの参加者アンケートのご意見を参考に、特に若手を意識した研究や実践のお悩みを気軽に相談できる場を設定した。参加申込登録を参考に、ブレイクアウトセッションのグループについて、興味関心や研究・実践年数を考慮し、委員で組み合わせを事前に検討した。当日は、欠席者も数名発生したものの、おおむね想定通りのグループ分けにて実施ができた。ブレイクアウトセッションには、委員が1名ずつ入り司会を行うという形で実施した。今回の企画も、ネットワーキング委員のメンバーの皆さんが大変素晴らしく、

企画、案内、募集、グループ分け、欠席者対応、当日の進行など、細かな点まで配慮した準備を行うことができ、当日の司会、運営なども大変スムーズに実施することができた。

今回の参加者のフィードバックからは、発表者・参加者ともに高い満足度を得られた。参加人数自体は限られているものの、発表者・参加者ともに、濃く、有意義な時間を過ごしていただけたという手応えを感じた。今回の発表者5名については、参加後のアンケートのプロフィールによると、2名は大学院生であり、3名は教員（5年未満）とのことで、今回の企画の想定通り「若手」の方々がお悩みを発表してくださった。参加者も、発表を聞き、質疑応答を行うことで、気づきや学び、そして繋がりを得ることができ有益だったというコメントをいただくことができた。コロナ禍の中で、今回のように近い関心を持つ人々と意見交換ができる場へのニーズが特に高まっていた中、今回のイベントは、学会としてのネットワーキング・研究・実践の促進に一定の役割を果たしたのではないかと考える。参加者の方からは、次回は発表者として参加したい、というコメントも見られることから、来年度以降も今回のような企画をリピートで実施していくことも検討したい。

今回の課題に関しては、発表者から提出してもらっていたレジュメについて、参加者への事前配布も検討したが、当日欠席の方も出てグループが直前に変更になる可能性や、実際に当日参加した方にもみ共有した方が良く、あまり事前の準備を要求することで参加へのハードルを上げたくないということなどから、事前配布は行わなかった。ただし、事前に共有があっても良かったというコメントがあったので、良い方法があれば対応を考えたい。また、今回若手を含めて心理的な敷居をできるだけ下げた形での実施を心がけたものの、研究初心者に対しては少人数でのブレイクアウトが少しハードルが高かったという意見があり、そのような方々にもプレッシャーを感じずに参加してもらえよう、さらなる配慮を検討したい。

次回は、大会における対面の交流会を、6月11日（土）に予定している。1時間と限られているが、今回の参加者から得られたアイデアや意見をもとに、企画準備を少しずつ始めたい。参加者同士で、小グループで話せる場へのニーズが高そうであるので、そのような方向性で検討したい。